しみんりょく

VOL.65
令和8年
(2026年)
12月

船橋市市民活動サポートセンターだより

「自分の経験」が、誰かの力になる。



ふなばし子育てサークルchisoku
小宮有希（こみやゆき）さん

「自分がすべて頑張らなければならない」。コロナ禍で妊娠・出産を経験し、「孤独と不安」を抱えながら子育てを始めました。そんな小宮さんにとって転機となったのが、地域の子育てサークルへの参加でした。

同じ月齢の子どもを持つ親と悩みを共有する中で、「自分だけじゃない」と思えたことで不安が和らぎ、「自分と同じように孤独を感じている人が、安心してつながれる場所をつくりたい」と思うようになったといいます。

その思いを胸に、令和７年に船橋市市民活動サポートセンターで行われた「はじめの一歩ワークショップ」への参加をきっかけに、「ふなばし子育てサークルchisoku」を立ち上げ、市内での活動をスタートしました。

「chisoku」という名前は、「今あるものを大事にする」という意味の「足るを知る」に由来します。

「目の前の我が子を大切にし、感謝する心を忘れないようにしたい」という子育てへの思いが込められています。

参加者から「参加して良かった」と言ってもらえることが大きな励みになっているそうです。「大変だけど、たった数人が少しでも幸せな気持ちになってくれたらやる意味がある」と話す小宮さんの姿が、とても印象的でした。

市民活動は、特別な人が始めるものではありません。「自分が辛かったから、同じ思いをする人を減らしたい・何かしたい」――そんな思いが、地域をちょっと良くする・変える一歩になる。

お話からそんな市民活動の原点を感じることができました。

ふなばし子育てサークルchisokuの活動内容紹介‼

主に船橋市内の公民館で、将来子どもを授かりたい方から未就学児のママまでを対象に、幸せな子育てにつながる学びと交流の場をつくっています。「妊娠中」から親子の時間を大切にし、助産師などを招いたイベントを通じて、自分の気持ちを見つめたり、同じ境遇の人とつながったりできる居場所を届けています。

インスタグラムはこちら

令和9年1月17日㈯に心あたたまるイベントを開催予定のため、フォローしてチェックしてください♪

活動の様子





特集 プレーパーク特集

プレーパークは「自分の責任で自由に遊ぶ」を基本理念とし、いつでも誰でも遊びに来ることができる子どもたちの遊び場です。自由な発想で遊ぶことはもちろんのこと、何もしなくてもいい、子どもや子どもを取り巻くみんなが安心してありのままに過ごせることを大切にしています。船橋市内で活動する一部の団体を紹介します！

「プレーパーク船橋」主な活動場所：長津川調節池

長津川調整池を中心に、市内の公園やキャンプ場にて、遊びに来るみんなが安心して過ごせる遊び場を開催しています。

「おそとを、居場所に」をモットーに、地域の緩やかな繋がりを大切にしながら、参加するみんなで遊び場を作り上げていけたらいいなと思っています。



「わくわくパークfun time」主な活動場所：駄菓子よこチャン



「遊びと学びと癒し」をテーマに、年齢や立場に関係なく、いろいろな人と「楽しい時間」を過ごすことを大切に活動しています。

プレーパークや子ども食堂、哲学カフェなど、地域でさまざまな活動を行っています。様々な人や経験との出会いを重ね、いろいろなことを乗り越えながら成長していく子どもたちを応援しています。

「薬円台プレーパーク」主な活動場所：薬円台公園

自然の中で、子どもたちの「やってみたい！」に挑戦できる遊び場プレーパークを、毎月第4日曜日と不定期の平日の2回、開催しています。

やってみたいことが広がる素材と環境を用意してお待ちしています♪





赤ちゃんから大人まで、地域の中でみんなで育ち合う居場所になるといいな、と思って活動しています。

プレーパーク船橋 齋木さんにお話を聞きました!





ー活動をはじめたきっかけはー

子どもが３歳を超える頃、徳島県から船橋市に転入してきました。

自然の中で子育てしてきましたが、船橋市は遊び場も少なく、公園などにも規制があり、何となく窮屈さを感じていました。

そんなとき出会ったのが、子どもが自由に発想し、遊びを考え、作っていくという市川市の団体が開催するプレーパークでした。

これだと思い発起、多くの方の協力を得て、設立に至りました。

ー約８年が経過しましたが、現状はどうですかー

徐々に理解が得られ、楽しみにしている子どもたちや親御さんが増えてきています。その一方で、子どもたちの元気な声が近隣の方のご迷惑になることもあります。温かい目で多くの方々に子どもたちの成長を見守ってほしいと願っています。

ー今後の抱負はー

他のプレーパーク活動団体や子育て支援団体と連携を図り、活動を広げていければと考えています。

小さな子どもだけではなく、中高生まで広く“居場所”づくりをテーマに飛躍していければと考えています。

Vol.4

市内企業の社会貢献活動紹介

今回は

IKEA Tokyo-Bay

「より快適な毎日を、より多くの方々にというビジョンのもと、社会貢献活動に取り組んでいます。誰もが安心して暮らせる地域社会のために、より快適な毎日を送れるよう、さまざまなパートナーと協働しています。

また、2030年までのサステナビリティ戦略を掲げ、環境負荷を抑えながら心身ともに健康的な生活を送るための取り組みを進めています。

社会貢献活動とは

企業の社会的責任(corporate social responsibility)といわれ、企業が社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくための活動です。

循環型ビジネスを体感できる サステナブルストアツアー

IKEA Tokyo-Bayでは、設置されているソーラーパネルやEV充電器、リサイクル＆ゴミ分別エリアの見学や、100％再生可能電力を使用した店舗運営や廃棄物ゼロを目指す循環型ビジネスを体感できるツアーを実施しています。また、商品の入れ替えで使用しなくなった展示品やお客さまから買い取りしたイケアの家具などをアウトレット価格で販売するマーケットなども実施しています。多くの小中学校に周知されており、資源を大切に使う取り組みについて学んでいただいています。



家具の寄贈で子育てを支援

社会的・経済的に困難な状況下にある子どもたちとそのご家族が安心して暮らせる空間づくりをサポートするため、子ども食堂、児童養護施設、特別支援学校などに家具の寄贈を行っています。

寄贈先にいる子どもの年齢やどういうニーズがあるか事前に把握し、インテリアデザインのプランニングから商品提供、商品の組み立てまで行い、それぞれの暮らしのニーズに合わせたデザインとレイアウトを提供しています。

イケアが手がける空間によって、安心や信頼のある暮らしができることを願っています。



IKEA Tokyo-Bay 金澤 和重さんにお話を聞きました!



その他の取り組み内容はこちら

より快適な毎日を、より多くの方々にというビジョンを掲げている中で、担当者だけでなく会社全体でどういった社会貢献をできるか、どのような目的で実施しているか各従業員にも意識してもらうため、積極的に活動に参加できるよう周知をされているそうです。

また、「このような活動を幅広く多くの方に知っていただくことで、今後の取り組みの活性化にも繋がる」と語る金澤さんは、ただ活動するのではなく、例えば、支援をする方にはどのような背景があって、何に困っているかを把握することで、支援した後もより快適な毎日を過ごせるよう、それぞれのニーズに合わせた支援をすることを心がけているとのことでした。

今後、船橋市や市民団体、地域の方々との連携を進めていき、地域を巻き込んで活動を発展させていき、持続可能な社会や地域の活性化に寄与したいという思いをお話しいただきました。

船橋市「市民協働の指針」を改定しました!

市では、まちづくりに関わる主体(市民、団体、事業者等）を増やし、多様な主体が相互理解を深め、互いの強みを生かして連携することで、より魅力あるまちづくりの実現に繋げていくことを目的に「市民協働の指針」を策定しています。コロナ禍以降、様々な社会背景が変化し、人々のニーズやライフスタイルが多種多様化する中、地域活動におけるボランティア人材の不足など、まちづくりに関わる人の減少が課題となっており、その解決に向け、本指針を改定しました。

あわせて、多くの皆様に普及できるよう、グラフィックレコーディングの手法を用いて内容をまとめた概要図のほか、まちづくりへの参加に関する事例を主体ごとに紹介する漫画を制作しましたので、ぜひご覧ください！

指針本編のデザイン・イラストにご協力いただいた千葉商科大学　吉羽ゼミナール生にお話を聞きました✨









伊藤さん

普段気をつけていること

普段はアニメーション表現や画像表現などの制作について幅広く学んでいて、クライアントがどんな活動しているか、その思いや課題、伝えたいことを事前にお聞きした上で、自分なりのアイディアや視点を大切にしています。

担当した箇所と意識したことや気をつけたこと

今回は11ページのミニキャラなどを担当し、事例をイラスト化する事でパッと見て分かりやすいように心がけました。冊子の中でパートを分けて複数人で作成したので、他のイラストを担当する人と相談して絵柄を統一することを意識しました。

今後について

グループで制作することの難しさを実感しました。一人で完結する仕事は無いので、グループ内で方向性を大切にし、協力しながら楽しく作業できる環境を作って行きたいです。

荒井さん

普段気をつけていること

クライアントの意図や表現したいことを反映させるのはもちろんですが、完成品を見る方の目線に立ち、どうやったら見やすく伝わりやすいか、全体像を理解してからデザインすることを心がけています。

担当した箇所と意識したことや気をつけたこと

表紙や全体のデザインを担当しました。

市民協働の指針という表紙をぱっと見た時に難しいと感じる方も多いと思ったので、情報を分かりやすく伝え、身近に感じてもらえるように、堅苦しくならないよう気をつけました。

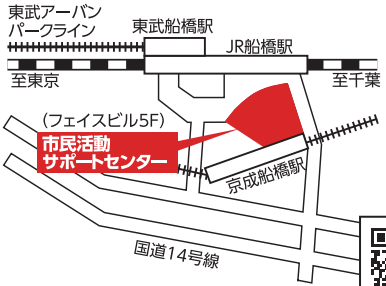
今後について

誰かと一緒に考え分かりやすく情報を伝えることの面白さを実感できたので、相手の思いや情報を的確に伝えられるよう工夫していきたいです。

編集・発行：船橋市市民活動サポートセンター運営協議会

【市民活動サポートセンター】
〒273-0005 船橋市本町1-3-1 フェイスビル5階
TEL(FAX)：047-423-3483(3436)
開館：月～土曜日　　午前9時～午後9時
　　日曜日・祝休日 午前9時～午後5時
休館：12月29日～翌年1月3日
【事務局】船橋市 市民協働課
TEL：047-436-3201　FAX：047-436-3063　E-mail：shiminkyodo@city.funabashi.lg.jp

センターに関する最新情報はこちら
ふなばし市民力発見サイトにリンク



《市民活動サポートセンター》や《しみんりょく》についてのご意見をお待ちしております